

渋沢龍彦 評論家・仏文学者・小説家。サド研究を柱に、ヨーロッパの異端を紹介しながら、独自の世界を構築した。

しぶさわ たつひこ

共産党事件・1928 = 東京市の高輪に生れた。父は渋沢一族の出で、武州銀行に勤務、以後川越に住む。

満州事変・1931 = 3歳 :

五一五事件・1932 = 4歳 : 父の転勤に伴い、東京市滝野川に移る。

芥川直木賞始 1935 = 7歳 : 尋常小学校に入学。

成績は優等であったが、級長には一度も選ばれなかった。図画、音楽が得意で、体操が苦手であった。

日中戦争始・1937 = 9歳 : 骨折のほか、さまざまな病気にかかり、学校を休むことが多かった。

日米開戦・1941 = 13歳 : 東京府立第五中学校に入学。

成績優等を通す一方、昆虫採集、標本づくりに熱中。

年金+総武装 1944 = 16歳 : 通年動員令により、授業を受けず、合金工場に通う。

敗戦・1945 = 17歳 : 浦和高等学校理科に合格、繰り上げ卒業。大空襲で家を焼失、父の郷里に疎開。昼は工場、夜に授業。

新憲法公布・1946 = 18歳 : 文科に転ずる。アテネ・フランスに通い、仏文学書を集的に読む。

極東裁判決・1948 = 20歳 : 東京大学文学部仏文科を受験して落ち、新太陽社にアルバイト、吉行淳之介と知り合う。

朝鮮戦争始・1950 = 22歳 : 三度目に合格するが、アカデミズムが肌に合わないと、殆ど学校に行かず、シュルレアリスムに熱中。やがて、サドの存在の大きさを知る。

独立回復・1951 = 23歳 :

メーデー事件・1952 = 24歳 : 同人誌(新人評論)に参加。

TV放送始・1953 = 25歳 : 東大を卒業するが、就職口は無く、岩波書店の社外校正の試験を受け、以後携わる。肺結核の診断。

自衛隊発足・1954 = 26歳 : *ジャン・コクトー「大誇びらき」を翻訳、処女出版。

55年体制始・1955 = 27歳 : 肺結核で校正も中断。父が急逝。最初のサドの翻訳「恋の駆引」を刊行。同人誌(ジャンル)を創刊。

国連加盟・1956 = 28歳 : 翻訳「マルキ・ド・サド選集」の序文を三島由紀夫に依頼、快諾を得、続いて を刊行。

なべ底不況・1957 = 29歳 : 病状やや好転し、復職。 を刊行して完結。翻訳、評論を発表、トロワイヤ「共同墓地」刊行。

ウソクオラマ・1958 = 30歳 : 胸の空洞が消え、人並みの生活に戻るとともに、校正の仕事をやめ、文筆活動に専念。デスノス「エロチシズム」、サド「悲惨物語」刊行。

美智子妃・1959 = 31歳 : 結婚。土方巽を知る。「コクトー戯曲全集1」、サド「悪徳の栄え」同続を翻訳刊行。評伝「サド復活」。

安保闘争・1960 = 32歳 : 京都大学の学園祭に招かれ、途次稲垣足穂を訪ねる。*「悪徳の栄え続」が発売禁止となる。

たいたい病始・1961 = 33歳 : サド裁判が始まる。評論集「黒魔術の手帖」刊行。

全国総合計画1962 = 34歳 : 評論集「神聖受胎」、小説集「犬狼都市」。サド裁判一審無罪。新訳「マルキ・ド・サド選集」刊行開始、

TV宇宙中継始1963 = 35歳 : 池田満寿夫らと交友。評論集「毒薬の手帖」、記録「サド裁判」。サド裁判二審有罪。

東京初ピク 1964 = 36歳 : 評伝集「世界悪女物語」、評論集「夢の宇宙誌」。「マルキ・ド・サド選集」が5巻で完結したのに合わせ、別巻「サド侯爵の生涯」を書き下ろし、刊行。

大学紛争始・1965 = 37歳 : 評論集「快楽主義の哲学」、エッセイ集「エロスの解剖」。

いざなぎ景気1966 = 38歳 : 土方巽により唐十郎を知り、その舞台に接する。評論集「秘密結社の手帖」、レアージュ「オー嬢の物語」。

美濃部都知事1967 = 39歳 : 評論集「サド研究」「エロチシズム」「幻想の画廊から」、評伝集「異端の肖像」。

霞ヶ関ビル・1968 = 40歳 : 協議離婚。『血と薔薇』が創刊され、1年間責任編集。

全共闘ビーク・1969 = 41歳 : 再婚。*サド裁判最高裁で有罪判決。

大阪万博・1970 = 42歳 : 「渋沢龍彦集成」全7巻。初めてヨーロッパ旅行、見送りに来た三島由紀夫が割腹自決。

ドルショック・1971 = 43歳 : 評論集「妖人奇人館」。『千夜一夜物語』取材のため中近東旅行。

日中国交回復1972 = 44歳 : エッセイ集「女のエピソード」、評論集「偏愛的作家論」「悪魔のいる文学史」。

石油ショック1973 = 45歳 : エッセイ集「ヨーロッパの乳房」「夢のある部屋」。『明恵上人や地獄絵の取材など日本回帰が見られる。』

角栄金脈辞任1974 = 46歳 : イタリア旅行。エッセイ集「胡桃の中の世界」、評論集「人形愛序説」。

ケアンズ事件1975 = 47歳 : 連載「日本列島南から北へ」、評論集「貝殻と頭蓋骨」「幻想の肖像」。

田中角栄逮捕1976 = 48歳 : 紀行文集「旅のモザイク」、評論集「幻想の彼方へ」。

JALハイジャック・1977 = 49歳 : 連載「城」取材で安土、姫路へ。フランス旅行。評論集「思考の紋章学」「洞窟の偶像」、エッセイ集「東西不思議物語」。

成田衝突・1978 = 50歳 : 評論集「スクリーンの悪魔」「機械仕掛けのエロス」、エッセイ集「記憶の遠近法」「幻想博物誌」。

革新大敗北・1979 = 51歳 : 評論集「悪魔の中世」、エッセイ集「玩物草紙」。『ピプリオテカ渋沢龍彦』全6巻。

貿易摩擦問題1980 = 52歳 : エッセイ集「城と牢獄」「太陽王と月の王」。

1981 = 53歳 : ギリシャ、イタリア旅行。エッセイ集「城」。小説集「唐草物語」で泉鏡花文学賞。

中曽根内閣・1982 = 54歳 : エッセイ集「魔法のランプ」「ドラコニア綺譚集」。

デイズ・ノート 1983 = 55歳 : 小説集「ねむり姫」、評論集「三島由紀夫おぼえがき」、エッセイ集「狐のだんぶくる」「マルジナリア」。

1984 = 56歳 : エッセイ集「華やかな食物誌」。『渋沢龍彦コレクション』全3巻。

バブル始・1986 = 58歳 : エッセイ集「私のプリニウス」。土方巽が死去、葬儀委員長をつとめる。小説集「うつろ舟」。『がんのため気管支切開で声を失う。』

竹下内閣・1987 = 59歳 : 『新編ピプリオテカ渋沢龍彦』全10巻。入院中、頸動脈破裂で没した。没後、遺作となった「高丘親王航海記」が発売文学賞。